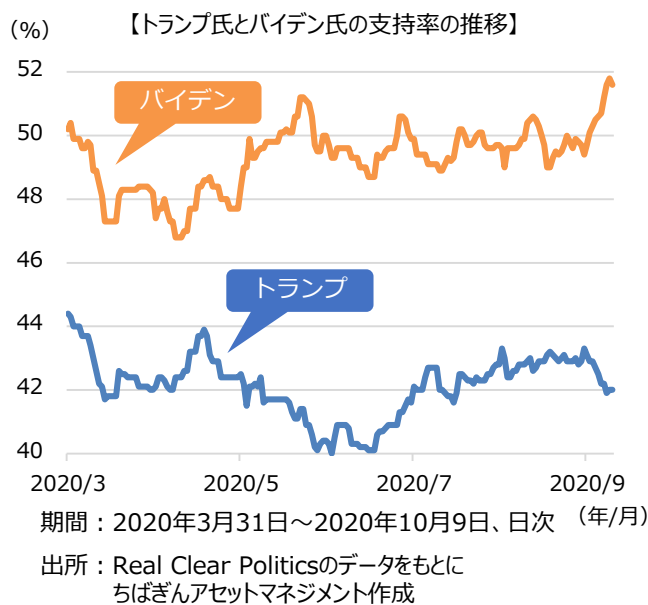


注目される米大統領選

～主なポイントと米国株市場の選挙後見通し～

両候補の支持率と米国株市場の動向

- ✓ 米国の大統領選が行われる11月3日まで1カ月を切るなか、大統領選関連のイベントへの注目が高まっています。第1回大統領候補討論会でバイデン氏優勢との見方が広がったことや、トランプ氏の新型コロナ感染報道を受け、バイデン氏の支持率が上昇しています。
- ✓ こうしたイベント後にバイデン氏に優位な流れと伝わると、米国株は夜間取引で急落する場面がありました。バイデン氏が選挙公約として掲げる企業向け・富裕層向け増税が実施される確率が高まったことを嫌気した動きとみられます。米国株は追加経済対策への期待などを支えに足元上昇していますが、値動きは大きくなっています。



今回の米大統領選の主なポイント

- ✓ 全米の支持率ではバイデン氏が優位を広げていますが、2016年の大統領選では全米での支持率で劣っていたトランプ氏が激戦州を僅差で制し勝利したこともあり、激戦州での支持率が拮抗している状況では、まだ結果は不透明と言えます。
- ✓ コロナ禍で行われる今回の大統領選では郵便投票の割合が高くなり、開票に時間がかかることが見込まれます。さらに、トランプ氏は郵便投票について不正の温床になり得ると批判しています。選挙の有効性自体に疑問符がつく可能性があり、どちらかの陣営が選挙結果を認めないことで混乱が長引く可能性も指摘されています。
- ✓ 大統領選とともに、上院（定数100）の議員の内およそ1/3と下院（定数435）全員の改選も行われます。現在、上院では共和党が、下院では民主党が多数党になっており与野党の「ねじれ」が生じています。今回の上院・下院の改選で与野党の「ねじれ」が解消されるかどうかにも注目されます。

米国株市場の選挙後見通し

◆ 短期的な見通し ～コロナ対策など景気刺激策、選挙巡る不透明感の後退、ワクチン開発への期待が支えに～

- ✓ 両候補の政策の違いが注目される状況ですが、コロナ禍の現状を考慮すると、どちらの候補が勝利してもコロナ対策など景気刺激策を優先するとみられます。選挙を巡る不透明感の後退も、短期的には米国株市場を支えそうです。
- ✓ 新型コロナのワクチン普及による経済正常化への期待が広がっています。ワクチン開発はこれまでにないスピードで進んでおり、米国では11月から12月にかけ3,000万人に接種できる量のワクチンを用意可能との見通しも出ています。ワクチンへの期待も相場のサポート材料となりそうです。

◆ 選挙を巡るリスク要因、両候補の政策の違いと予想される株価への影響

- ✓ 選挙結果の判明遅延により混乱が生じた場合、株価は調整する場面もあるかもしれません。また、与野党の「ねじれ」が継続した場合、政策実現に時間がかかることが予想され、株価の上値は抑えられる可能性があります。今回の選挙については、結果が出るタイミングや、与野党の改選結果にも注目です。
- ✓ バイデン氏勝利の場合は、短期的には大型財政政策が株価にとってポジティブ材料となりそうですが、中長期的には企業向け・富裕層向け増税などにより株価の上値は抑えられる可能性があります。
- ✓ トランプ氏勝利の場合は、短期的には財政政策や給与税等の減税が株価にとってポジティブ材料となりそうですが、中長期的には米中関係の更なる悪化が懸念材料となります。

● 当資料はちばぎんアセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

● 本資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的とした上記日時における当社の意見です。投資に関する最終決定は、お客様御自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当社が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当社が保証するものではありません。加えて、この資料に記載された当社の意見ならびに予測は、予告なしに変更することがありますのでご注意ください。当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。

● 本資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。